

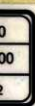
栃木県埋蔵文化財調査報告第382集

# 舟戸台北遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う発掘調査—

2016. 3

栃木県教育委員会  
(公財)とちぎ未来づくり財団



ふな と だい きた  
舟 戸 台 北 遺 跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）一般国道 123 号水橋西工区に伴う発掘調査—

2016. 3

栃 木 県 教 育 委 員 会  
（公財）とちぎ未来づくり財団

## 序

舟戸台北遺跡は、栃木県の南東部、芳賀郡芳賀町に位置しています。町の西側には、遺跡の所在する宝積寺台地があり、中央には五行川が南流し五行川低地を形成し、水と緑に恵まれた田園地帯となっています。宝積寺台地は、古来より人々の生活に適していたと考えられ、有史以前からの遺跡が数多く所在し、多くの古墳が造られ、大規模な集落が営まれていました。

この度、一般国道123号道路拡幅工事に先立ち、路線内に所在する遺跡の取扱いについて関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。その結果、平安時代の集落遺跡であることが確認でき、地域の歴史を知る上で、良好な資料を得ることができました。

本報告書は、その発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至まで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、芳賀町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

栃木県教育委員会  
教育長 古澤利通

## 例 言

1. 本書は、栃木県芳賀郡芳賀町西水沼地内に所在する舟戸台北遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の概要については、年報等で一部公表されるが、本書をもって正報告とする。
2. 発掘調査は、快適で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う記録保存調査である。
3. 発掘調査は、栃木県県土整備部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査から整理作業および報告書作成までの担当は次のとおりである。

### 【発掘調査】

平成27年6月22日～9月30日

公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

整理課 副主任 植木茂雄

調査課 嘱託調査員 大木丈夫

### 【整理作業・報告書作成作業】

平成28年2月1日～平成28年3月30日

公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

整理課 副主任 植木茂雄

5. 本書の執筆・編集は植木が担当し、副所長初山孝行が校閲した。
6. 再委託のうち、重機による表土除去作業は株式会社戸祭建設に委託した。また、基準点測量・基準杭の打設は中央航業株式会社に委託した。
7. 写真撮影は、発掘調査における遺構：植木、大木、遺物：植木）が行った。
8. 発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を賜った。  
栃木県県土整備部、真岡土木事務所、芳賀町教育委員会、（順不同）
9. 発掘調査参加者は、次のとおりである。  
松本 一夫、富田 義弘、亀田 一六、鈴木 和二、森 秀昭、皆川 まさ子、皆川 典男、大登 昇、宇塚 悦美（五十音順）
10. 整理作業・報告書作成作業参加者は、次のとおりである。  
佐久間 京子、武田 智子、前田 洋美（五十音順）
12. 本遺跡の出土遺物・資料類は、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

1. 遺跡の略号は、舟戸台北遺跡：HG-FN (HAGA-FUNATODAIKITA) である。
2. 遺構略号は、発掘調査時はS-〇〇の通し番号で管理していた。しかし、整理・報告書作成の段階で番号は基本的に同じとしたが、遺構の種類によって以下のように表記した。  
SI (竪穴住居跡)、SD (溝跡)、SK (土坑)、P (小ピット)
3. 遺構実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として、遺構配置図1/400、竪穴住居跡遺構実測図及び断面図は1/60、溝・土坑・小ピットは1/80で表記した。
4. 遺構平面図中の方位は、世界測地系(日本測地系2000・Japanese Geodetic Datum 2000)平面直角座標系第Ⅸ系に基づいている。断面中の水準は、東京湾平均海面からの標高である。
5. 土層説明の記載は、発掘調査時の観察に準拠している。  
混入物の含有量については、多量、多く、やや多く、やや少なく、少なく、少量、微量に、しまり及び粘性については、強い、やや強い、弱い、無いに分け記載した。
6. 遺物実測図の縮尺は、原則として1/4としている。
7. 出土遺物観察表及び遺構計測地の( )は推定値、[ ]は残存値を表す。
8. 遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色研究所色票監査「新版 標準土色板 1996年版」を参考とした。
9. 写真図版の遺物の縮尺は基本的に不統一であるが、1/4に近づけてある。

## 目 次

序

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	8
第3章 発見された遺構と遺物	
第1節 調査の概要	9
第2節 竪穴住居跡	9
第3節 溝跡	12
第4節 土坑	22
第5節 その他の遺物	24
第4章 まとめ	24

## 挿図目次

第1図	舟戸台北遺跡位置図	第10図	遺構実測図(2)
第2図	遺跡の位置	第11図	遺構実測図(3)
第3図	発掘調査箇所・立ち会い調査箇所	第12図	遺構実測図(4)
第4図	遺跡の位置と地形図	第13図	遺構実測図(5)
第5図	周辺の遺跡	第14図	遺構実測図(6)
第6図	グリッド配置図	第15図	遺構実測図(7)
第7図	1区・2区遺構配置図	第16図	遺物実測図(1)
第8図	3区・4区遺構配置図	第17図	遺物実測図(2)
第9図	遺構実測図(1)	第18図	遺構外遺物実測図

## 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	第2表	出土遺物観察表
-----	---------	-----	---------

## 写真図版目次

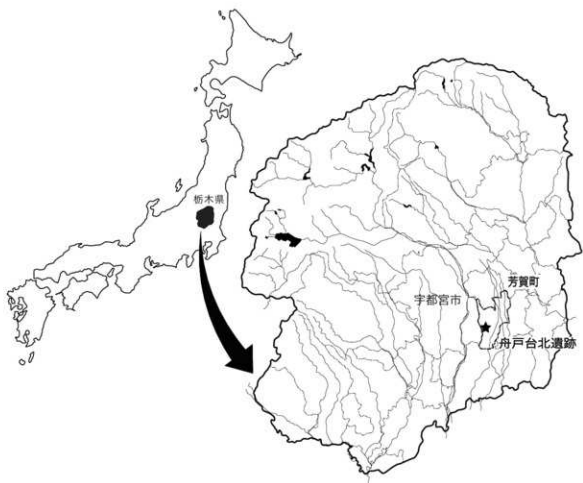
図版一	遺構写真(堅穴住居跡1)	SI-02 南北セクション(東から)	
	SI-24 完掘状況(南から)	SI-02 東西セクション(北から)	
	SI-25 完掘状況(南から)	図版四	遺構写真(堅穴住居跡4・溝跡)
図版二	遺構写真(堅穴住居跡2)	SI-02 完掘状況(東から)	
	SI-24 東西セクション(南から)	SD-01・SI-02 完掘状況(南東から)	
	SI-24 南北セクション(西から)	SD-01 完掘状況(北西から)	
	SI-24 遺物出土状況(南から)	SD-06・07・08 完掘状況(南東から)	
	SI-24 カマド遺物出土状況(南から)	SD-06・07・08 完掘状況(北西から)	
	SI-24 カマド遺物出土状況(南東から)	SD-11・12 調査風景(南東から)	
	SI-24 カマド遺物出土状況(南から)	SD-11・12 完掘状況(南東から)	
	SI-24 カマド掘方状況(南から)	SD-12 東西セクション(北西から)	
図版三	遺構写真(堅穴住居跡3)	図版五	出土遺物1・基本土層
	SI-25 東西セクション(南から)	SI-24 出土遺物・遺構外遺物	
	SI-25 南北セクション(西から)	基本土層	
	SI-25 遺物出土状況(南から)	図版六	出土遺物2
	SI-25 カマド遺物出土状況(南から)	SI-24 出土遺物	
	SI-24 調査風景(南西から)	SI-25 出土遺物	
	SI-25 調査風景(北から)		

## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

舟戸台北遺跡の所在する芳賀町には、栃木県宇都宮市平松町交差点を起点とし、茨城県水戸市袴塚3丁目交差点を終点とする一般国道123号が東西に走っている。国道123号は、起点の平松町交差点から約9kmの宇都宮市氷室町までは4車線になっており、そのほかの区間も整備状況は良い。しかし、朝夕の通勤時間帯には多くの車が利用し、宇都宮市と水戸市を結ぶ幹線道路として、大型車の通行も多いことから、歩道が狭く危険な箇所が存在するのが現状である。

栃木県県土整備部では、このような危険箇所を解消するため、国道123号（水橋バイパス）の道路改良工事を計画した。平成15年11月27日に栃木県教育委員会事務局文化財課で所在調査を実施し、舟戸台北遺跡については、慎重工事対応、舟戸西遺跡については再度協議で調整を行った。その後、舟戸西遺跡の該当する地区について再度協議をかさね、平成26年8月27日に確認調査を実施し、遺構が存在することが明らかになったが、平成26年度の工事箇所部分については工事範囲が狭いため、工事立ち会いで対応した。平成27年度以降の工事範囲については発掘調査を実施する可能性も含めて調整を行ってきた。このうち工事立ち会いについて調査を実施し、併せて次年度部分の遺構の有無についても確認調査を実施した。調査の結果、竪穴住居跡2軒、土坑4基、ピット1基を検出したことから、当該一帯が古代の集落跡であることが確認で



第1図 舟戸台北遺跡位置図



きた。これらの成果を考慮して、平成27年度の工事範囲については、遺跡の存在が想定されるため、遺跡の取り扱いについて再度協議を行い、発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は平成27年度に実施した。平成27年4月1日付け文財号外で、栃木県教育委員会事務局文化財課長から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長あて、「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（舟戸台北遺跡）の費用見積について」の依頼があり、同日付けで公益財団法人とちぎ未来づくり財団では、見積書（見積金額・積算説明書）を栃木県知事あて回答した。

その後、「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（舟戸台北遺跡）の委託契約の締結について」の依頼があり、平成27年4月1日付けで、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が、栃木県知事と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で取り交わされた。主な内容は、委託業務名：舟戸台北遺跡発掘調査（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う発掘調査）、委託業務地：芳賀町西水沼地内、委託する業務の内容：発掘調査（調査面積4,132㎡）、委託期間：契約締結日（平成27年4月1日～平成28年3月30日）、委託料：26,086,000円（うち消費税及び地方消費税1,932,296円）である。

発掘調査終了後、年度内に整理・報告書作成を実施することとして変更契約を締結した。平成27年9月15日付け文財号外で栃木県教育委員会事務局文化財課課長から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長あて、「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（舟戸台北遺跡）の変更契約に伴う費用見積について」の費用見積についての依頼があり、同日付けとち埋文第号で見積書（見積金額・積算説明書）を栃木県知事あて回答した。そして、平成27年9月24日付け文財号外で、「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（舟戸台北遺跡）の変更契約の締結について」の依頼があり、平成27年9月24日付けとち埋文第号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」が栃木県知事と公益財団法人とちぎ



第2図 遺跡の位置

未来づくり財団理事長との間で取り交わされた。主な内容は、委託業務名：舟戸台北遺跡発掘調査（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う発掘調査）、委託業務地：下野市紫474（理蔵文化財センター）、委託する業務の内容：整理・報告書作成作業（調査面積145㎡）、委託期間：契約締結日（平成27年4月1日～平成28年3月30日）、委託料：金22,686,000円（うち消費税及び地方消費税額1,680,444円）である。

## 第2節 発掘調査の方法と経過

舟戸台北遺跡の発掘調査地は、道路の幅に伴い細長い範囲のため、北東から1区～4区に分けて調査を行った。調査にあたっては、測量のための杭を10m間隔を基準になるように設定した。

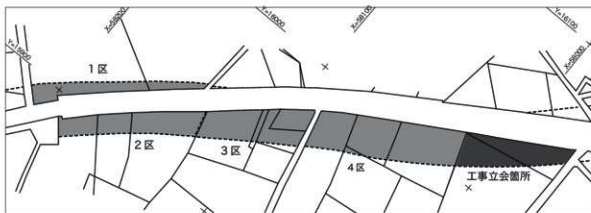
発掘調査は、平成27年6月後半から9月下旬にかけて実施した。調査にあたり、現況の確認や事前協議、関係機関との調整、作業員の募集などを行いながら、プレハブの設置等の準備を進めていった。先に述べたように、細長い調査区のため、プレハブの設置場所や廃土置き場の確保が難しかったが、調査区西側の民有地を借地することにより場所を確保し、プレハブを設置し、廃土置き場については、バイパスの別の工事区内で使用するために搬出することができ、発掘作業に先立ち、廃土の運搬を行った。また、国道に近接した調査のため、道路と調査区の間にはバリケードを設置して、安全に作業ができるようにした。

発掘調査は、重機による表土除去等の掘削で遺構の確認作業を実施し、表土除去作業の終了後、作業員による発掘調査を1区・2区・3区・4区の順番で実施した。

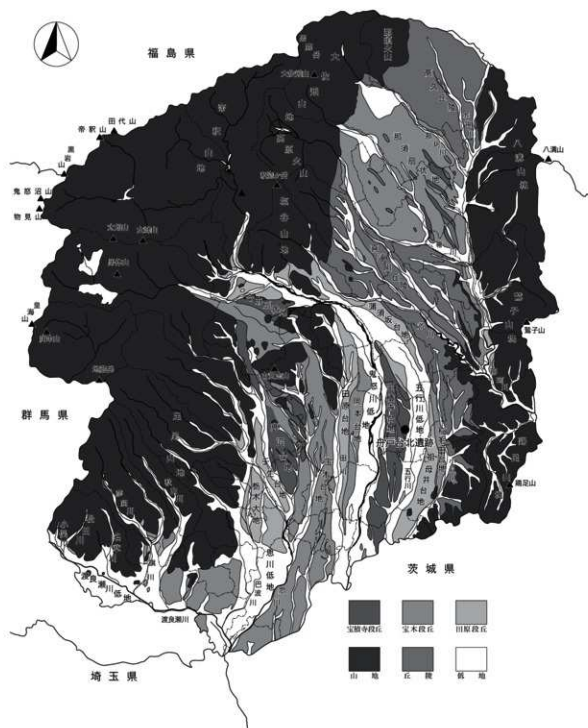
調査終了後は、機材の撤収、プレハブの撤去を行い、現地調査による一連の作業を終了した。

整理作業は、平成28年2月から理蔵文化財センターで実施した。出土遺物は水洗作業、注記作業を行い、その後には接合作業、復元作業を行った後に、実測作業と必要に応じて拓本も採り、遺物図版を作成した。また、実測などの作業と併せて、写真の撮影も行い写真の図版も作成した。遺構の図面についても各遺構の平面図、遺構配置図や全体図の図版を作成した。

上記の図版作成と併せて遺構・遺物の原稿等を執筆し、それを割り付けて校正をした後、平成28年3月刊行の報告書をもって、舟戸台北遺跡発掘調査（快速で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う発掘調査）の発掘調査は終了した。



第3図 発掘調査箇所・立ち会い調査箇所



第4図 遺跡の位置と地形図

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

**遺跡の立地** 舟戸台北遺跡は栃木県の南東部、芳賀町と宇都宮市の境界に近く、県都である宇都宮市街中心部から東へ約14km、芳賀町の中心部から南西に約5kmの芳賀町西水沼に所在する。東へ約2.4kmには五行川、西へ約5kmには鬼怒川がそれぞれ南流する。遺跡は宝積寺台地上に位置し、東側には田園地帯が広がり、遺跡の発掘調査前の状況は宅地と畑地であった。発掘調査は国道123号の拡幅工事に伴うため、道路に沿って調査を行った。

**地形の分類** 栃木県は関東地方の北部に位置し、東と南を茨城県、西を群馬県、北を福島県と境を接している。栃木県の地形を大きく見ると、基本的には東西に山地が存在し、中央には南に向かって緩やかに傾斜する平地がのびている。東部山地は「八溝山地」と呼ばれ、分水嶺が茨城県との境になっている。北から八溝山塊・鷲子山塊・鶴足山塊に大別され、主峰の八溝山は標高1,022mであるが、他は概ね500m以下の山々である。これに対し西部山地は峻険で、特に北半分の「下野山地」には、北から那須岳（標高1,915m）、高原山（標高1,795m）、帝釈山（標高2,060m）、白根山（標高2,578m）、男体山（標高2,484m）など、関東地方でも有数の高山が峰を連ねている。南半分の「足尾山地」は、南方に向けて高さを減じ、関東平野へと連なっている。中央平地は、関東平野の北の縁に相当する。北端には、那須岳の裾野である「那須野ヶ原」が広がり、その南に横たわる「喜連川丘陵」を経て南方に向かって緩やかに傾斜している。このため、「喜連川丘陵」以南では、「鬼怒川」をはじめ「五行川」、「小貝川」などの河川が南流し、平野部は幾つかの南北に細長い台地、微高地に分断されている。舟戸台北遺跡は、これらの台地の一つである「宝積寺台地」の東縁に位置している。「宝積寺台地」は西側を流れる鬼怒川、東側を南流する五行川およびその支流である野元川によって挟まれており、北端は高根沢町宝積寺、南端は茨城県筑西市にまで達している。台地の周辺は崖となっている部分が多い。遺跡の立地する標高は110m前後で、東側の野元川流域の水田面との比高差は約20m前後である。この台地は砂礫層の上に「宝積寺ローム」等が厚く堆積したもので、県内でも最古の段丘面とされる。台地上には平坦面がよく残っているが、ほぼ南北方向の細長い浸食谷も幾筋かみられ、当遺跡の北側にも谷が入り込んでいる。

**遺跡周辺の地質** 当遺跡の地質を見ると、現在の表土である耕作土等の直下にローム漸移層がみられ、七本桜軽石・今市軽石の粒子（ともに男体山の火山活動末期の噴出物で、県中央から、県東部にかけて分布が見られる。1万2,000年から1万2,300年前）がわずかに含まれている。これらの軽石は、北に約3.5kmの芳賀町免の内台遺跡では20～30cm前後の層として堆積が見られ、さらに免の内台遺跡の北北東約9kmに所在する高根沢町砂部遺跡では、七本桜軽石層約15cm、今市軽石層約80cmの堆積が認められた。しかし、当遺跡ではわずかに見られる程度であった。このことから、七本桜軽石・今市軽石は、高根沢町周辺では厚く堆積し、免の内台遺跡の所在する芳賀町芳賀台地域から当遺跡の所在する芳賀町西水沼に至るまでに純層としての降積が無くなる事が確認できた。

漸移層の下層は黄褐色のローム層となり、地表面から約1.3mで「暗色帯」になり、「暗色帯」は約0.3m堆積し、その下約0.4m程度のローム層を経て鹿沼軽石層へと続く。（図版六 基本土層参照）



第5図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
1	釜原遺跡	縄文・古墳～平安	集落跡	46	釜原遺跡	古墳・奈良	集落跡
2	下原遺跡	縄文・古墳～平安	集落跡	47	シノト久保遺跡	縄文・古墳	集落跡
3	土庫原	近世以降	高塚	48	東田遺跡	奈良	集落跡
4	惣所台古墳群	古墳	古墳 円墳 10基	49	東田遺跡	縄文	集落跡
5	免の内台	縄文・古墳～平安	集落跡	50	中柳高塚群	江戸	高塚
6	紫の木原遺跡	縄文・古墳～平安	集落跡	51	西原東中塚群	江戸	東中塚
7	孫久保遺跡	縄文～平安	集落跡	52	夕顔内遺跡	縄文・奈良	集落跡
8	孫久保古墳	古墳	古墳 前方後円墳	53	榎木内遺跡	奈良・平安	集落跡
9	轟山古墳群	古墳	古墳 前方後円墳1基・円墳4基	54	草倉坂下遺跡	縄文	集落跡
10	五小井遺跡	縄文・古墳～平安	集落跡	55	千夜稲荷神社古墳	古墳	古墳
11	谷辺台遺跡	古墳	集落跡	56	小松原遺跡	古墳	集落跡
12	谷辺台古墳群	古墳	古墳 円墳 6基	57	砂音寺高塚群	江戸	高塚
13	赤戸台北遺跡	古墳跡	集落跡	58	小松原北遺跡	奈良・平安	集落跡
14	赤戸台古墳群	古墳	古墳 円墳 2基	59	中台遺跡	古墳	集落跡
15	ジケンゴ塚西遺跡	古墳・奈良・平安	集落跡	60	東中台遺跡	奈良・平安	集落跡
16	太郎塚古墳群	古墳	古墳 円墳 4基	61	中台東古墳	古墳	古墳
17	葛六台遺跡	古墳・奈良・平安	集落跡	62	中台東遺跡	古墳	古墳
18	中台遺跡	縄文～平安	集落跡	63	中台西遺跡	奈良・奈良	集落跡
19	中台古墳群	古墳	古墳 前方後円墳	64	中台西塚	江戸	高塚
20	亀の子塚古墳	古墳	古墳 前方後円墳 墓跡定	65	おひこり塚古墳	古墳	古墳
21	泉原トノ屋古墳群	古墳	古墳 扇塚古墳墓跡定 円墳 8基	66	石内遺跡	縄文・奈良	集落跡
22	妻法田遺跡	奈良・平安	墓定 芳賀郡街 墓跡定	67	免の内台遺跡	縄文・古墳	集落跡
23	大内塚寺	奈良・平安	寺院跡 墓跡定	68	赤原中ノ島遺跡	縄文・奈良	集落跡
24	泉輪前遺跡	古墳	集落跡	69	赤原中ノ島北遺跡	奈良・平安	集落跡
25	赤土遺跡	古墳	集落跡	70	五塚内古墳	古墳	古墳
26	井頭遺跡	奈良・平安	集落跡	71	五塚内遺跡	奈良	集落跡
27	塚原遺跡	縄文	散布地	72	轟山東原遺跡	縄文・古墳	集落跡
28	宇都宮大字香子部行基神社遺跡	石器器・縄文～平安	散布地	73	千流ノ原遺跡	縄文・古墳	集落跡
29	北原遺跡	古墳	集落跡	74	竹下遺跡	縄文・古墳	集落跡
30	藤島南原古墳群	古墳	古墳 前方後円墳	75	横山城跡	室町	城跡跡
31	上山遺跡	縄文・平安	集落跡	76	竹下浅間山古墳	古墳	古墳
32	川曾内遺跡	奈良	散布地	77	河原寺館跡	室町	城跡跡
33	熊宗古墳群	古墳	古墳 円墳 2基	78	山之内内遺跡	奈良・平安	集落跡
34	下原古墳	古墳	古墳	79	どびつか高塚	江戸	高塚
35	下西原遺跡	縄文・奈良	集落跡	80	大塚古墳	古墳	集落跡
36	森井戸遺跡	縄文	集落跡	81	大塚古墳	古墳	古墳
37	下上遺跡	縄文・奈良・平安	集落跡	82	赤高塚遺跡	縄文・古墳	城跡跡
38	東原遺跡	縄文	集落跡	83	野高寺北台遺跡	縄文・古墳	集落跡
39	坂下遺跡	古墳・奈良・平安	集落跡	84	野高寺東原遺跡	古墳	集落跡
40	栗内ノ上遺跡	縄文・奈良	集落跡	85	藤原堂遺跡	中世～近世	集落跡・墓跡跡
41	坂下遺跡	古墳	古墳	86	河原寺遺跡	縄文・古墳	集落跡
42	西向遺跡	縄文・奈良・平安	集落跡	87	河原寺遺跡	奈良・平安	集落跡
43	上蔵谷原古墳	古墳	古墳	88	赤路城跡	室町	城跡跡
44	上蔵谷原高塚	江戸	高塚	89	東沢遺跡	古墳	集落跡
45	小泉原高塚	江戸	東中塚	90	綱守森西遺跡	縄文・奈良	集落跡

## 参考文献

栃木県史編さん委員会 1976 『栃木県史』資料編・考古一

栃木県 1988 『土地分類基本調査』

栃木県教育委員会 1997 『栃木県埋蔵文化財地図』

芳賀町教育委員会 1999 『芳賀町遺跡分布調査報告書』

宇都宮市教育委員会 1997 『宇都宮市遺跡地図』

芳賀町史編さん委員会 2001 『芳賀町史』資料編考古

真岡市史編さん委員会 1984 『真岡市史』第1巻考古資料編

芳賀町教育委員会 1994 『栃木県芳賀町免の内台遺跡』

栃木県教育委員会 1993 『免の内台遺跡』

栃木県教育委員会 1979 『井頭遺跡』

## 第2節 歴史的環境

舟戸台北遺跡の所在する芳賀町は、東側は市貝町、西側は宇都宮市、南川は真岡市、北側は高根沢町と接する地域である。本遺跡は立地する宝積寺台地は、東側に野元川が南流し、南方約3.4kmの地点で五行川と合流し、やがて小貝川、利根川へと流れ込む。この台地上には数多くの遺跡が分布し、芳賀町免の内台遺跡のように縄文時代から奈良・平安時代の長期に及ぶ、人々の生活の営みを伺い知ることのできる遺跡もある。本遺跡と接する宝積寺台地上の遺跡群を中心に、時代ごとに記述し歴史環境の一端について触れることとする。

**縄文時代** 発掘調査の行われた縄文時代の遺跡としては、台地の東縁に免の内遺跡、台地の西縁に宇都宮市竹下遺跡(73)などがあげられる。1986年から1989年にかけて発掘調査を実施した免の内台遺跡では、中期の阿玉台式期から加曾利EⅡ式期にかけての堅穴住居跡7軒、土坑203基が確認された。竹下遺跡では、9回の発掘調査が行われ、中期から後期にかけての大規模な集落である事が判明しています。堅穴住居跡の他に袋状土坑も多数検出されている。また、周辺の遺跡として、芳賀町下原遺跡、梨の木原遺跡、後久保遺跡、五斗苜遺跡、中峯遺跡などがあげられる。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡は県内の同時期と同様に僅少である。本遺跡に隣接しても少なく、免の内台遺跡の発掘調査で中期の再葬墓が検出されている。

**古墳時代(集落)** 古墳時代の集落としては、北方約1.2kmに芳賀町谷近台遺跡が所在する。1975年に芳賀町教育委員会により発掘調査が実施され、古墳時代前期の堅穴住居跡7軒を検出した。堅穴住居跡内よりS字口線壺や単口線壺など古墳時代前期の遺物が出土した代表的な遺跡である。また、免の内台遺跡からは、古墳時代中期から後期にかけての堅穴住居跡23軒を検出した。

**古墳時代(古墳)** 宝積寺台地上には幾つかの古墳が群在する。一番近距離に所在するのは、芳賀町谷近台古墳群である。円墳6基が所在し、1974年にそのうちの1基の剣塚古墳を芳賀町が発掘調査を実施した。内部主体の箱式石棺より鉄剣、鉄鎌が出土し、6世紀前半の時期に比定できる。この古墳の北約2.4kmの位置に芳賀町藤本古墳群がある。前方後円墳1基、円墳4基が存在する。前方後円墳は全長49.5mを測る。また、当遺跡から南に約2kmには全長56mの前方後円墳の亀の子塚古墳がある。県指定史跡であるが未調査のため詳細については不明である。本遺跡の立地する宝積寺台地上に位置する古墳群は、集落と同様に台地縁辺に構築した様相が窺える。一方、当遺跡から南南東約4.8kmの五行川低地には、鶏型形象埴輪が出土したことで知られる鶏塚古墳の所在する京泉シトミ原古墳群がある。

**奈良・平安時代** 奈良・平安時代の遺跡としては、免の内遺跡では奈良から平安時代にかけての堅穴住居跡が70軒検出した。また、本遺跡南方約3.8kmに位置する井頭遺跡があげられる。本遺跡と同様に宝積寺台地上にのっており、1971年から1974年までの発掘調査により大規模集落を検出した。

一方、五行川低地では、当遺跡から南南東約6kmに推定芳賀郡衙とされる堂法田遺跡と寺院跡の大内廃寺跡がある。

## 第3章 発見された遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

舟戸台北遺跡の発掘調査は、国道123号の拡幅工事に伴うもので、道路に沿って調査を行ったため、道路を挟んで細長い調査区となった。1区は、国道の北側に位置する。全長約67m、幅6.5mから2.0mの範囲を調査した。調査区の北西側にSD-01、SI-02が、南東側にSK-04、SD-05が検出された。2区は1区の道路を挟んで南側に位置する。全長約60m、幅8.0mから6.0mの範囲を調査した。調査区の北西側にSK-09、調査区北西から中央にかけてSD-06、07、08とSK-10が、調査区南東側にSD-11、12が検出された。3区は2区の道路に沿った南東に位置する。全長約60m、幅12.0mから10.0mの範囲を調査したが、南東側の一部が住宅跡であったため、住宅の基礎などによる攪乱があり、調査が出来なかった。調査区の北西側にSD-13、14が、調査区中央にSK-15、16が検出され、調査区南東側でSD-17からSD-28の9基の土坑などがまとまって検出できた。4区は3区の南東に位置する。全長約70m、幅20.0mから15.0mの範囲を調査した。遺構は調査区の北西にSI-24、25、SK-26が検出できたが、調査区中央から南東にかけては耕作等で削平を受けており、遺構は検出できなかった。

今回の調査で確認できた遺構数は、竪穴住居跡3軒、溝跡9条、土坑16基、小ピット5基である。以下に遺構毎に概要をのべている。

### 第2節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は3軒検出された。

SI-02（遺構：第7、9図・図版三、四）

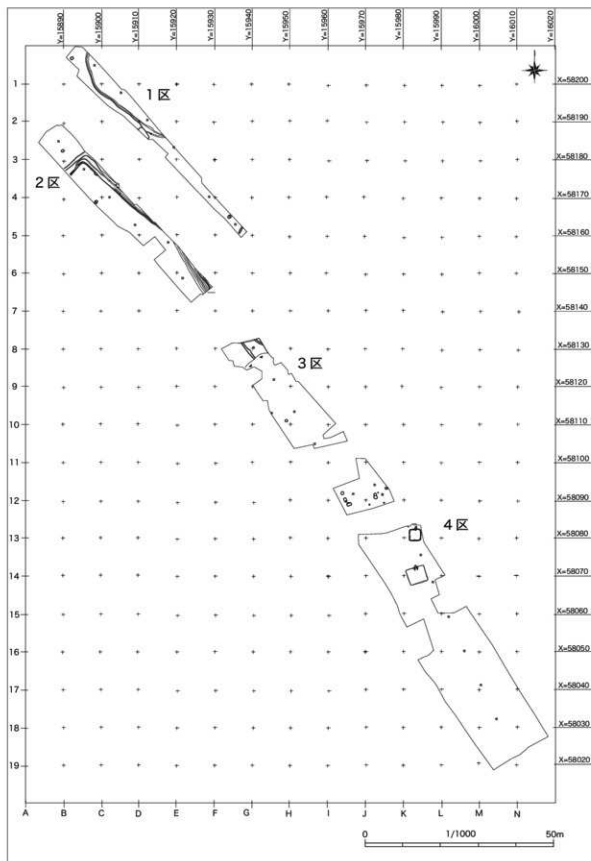
**位置** 1区：D-3グリッド。**重複関係** 北東側がSD-01と重複している。SI-02が古い。**規模と形状** 西側は調査区外のため全容については不明である。南北約3.5m、深さ約0.35mである。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**その他** カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。また、遺物は須恵器の坏の小片が2点出土したのみである。

SI-24（遺構：第8、10図・図版一、二、三 遺物：第16、17図・第2表・図版五、六）

**位置** 4区：K-14、15グリッド。**規模と形状** 東西約4.8m、南北約4.3m、カマドを含めた南北約4.7m、深さ約0.7mで、東西に若干長い長方形である。主軸N-10°-E。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**カマド** 北壁の中央より若干東に位置する。長さ1.25m、幅1.1mである。両袖とも芯に土師器の甕を、東袖には瓦を使用している。床面 貼床が確認できた。**出土遺物** 須恵器坏2点、土師器甕5点、瓦1点が図示できた。

1は須恵器の坏で、住居跡中央から南壁に近く、床面より10cmの位置から出土している。産地は、その特徴から益子古窯跡群の窯跡で、8世紀後半の時期が考えられる。2は須恵器の坏で、カマドのほぼ中央の底面から出土している。内側に漆と考えられる付着物があつた。産地は、その特徴から益子古窯跡群の窯跡で、8世紀後半の時期が考えられる。3は丸瓦で、カマド東袖内から出土した。中央部分が残り、両端が破損している。裏面には布目が施され、作りが丁寧である。4は土師器の甕で、カマド西袖から5の土器と一緒に出土した。5はカマド西袖から出土した。6はカマドの前と南壁に近い位置から出土したものが接合できた。7はカマドの両袖から出土した。8は覆土中から出土している。これらの甕はその特徴から8世紀後半の時期が考え



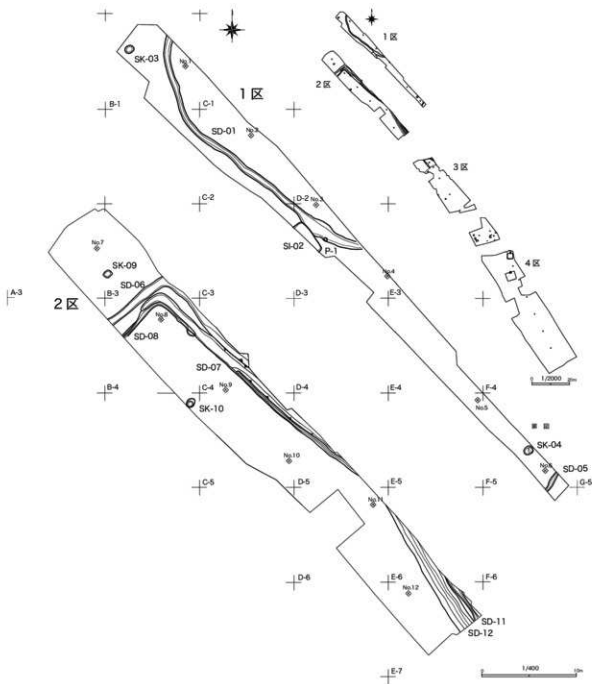


第6図 グリッド配置図

られる。その他 柱穴は検出できなかった。

SI-25 (遺構：第8、10図・図版一、二、三 遺物：第17図・第2表・図版六)

位置 4区：K-13グリッド。規模と形状 東西約2.9m、南北約3.0m、カマドを含めた南北約3.5m、深さ約0.35mで、ほぼ正方形である。主軸N-17°-E。覆土 ロームブロックが多く、不自然な堆積であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。カマド 北壁のほぼ中央に位置している。袖は残存していないが、東側に若干白色粘土が見られた。床面 貼床が確認できた。出土遺物 土師器の甕1点が図示できた。カマドの前と西側北壁の近くから出土した。その特徴から8世紀後半の時期が考えられる。その他 壁溝が北壁側と西壁



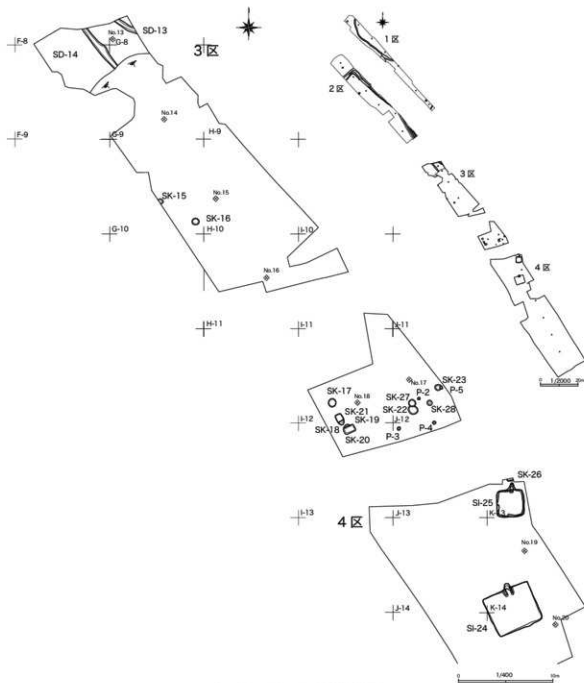
第7図 1区・2区遺構配置図

中央の一部分を除いて巡っている。壁溝の深さは約10cmである。また、柱穴は検出できなかった。

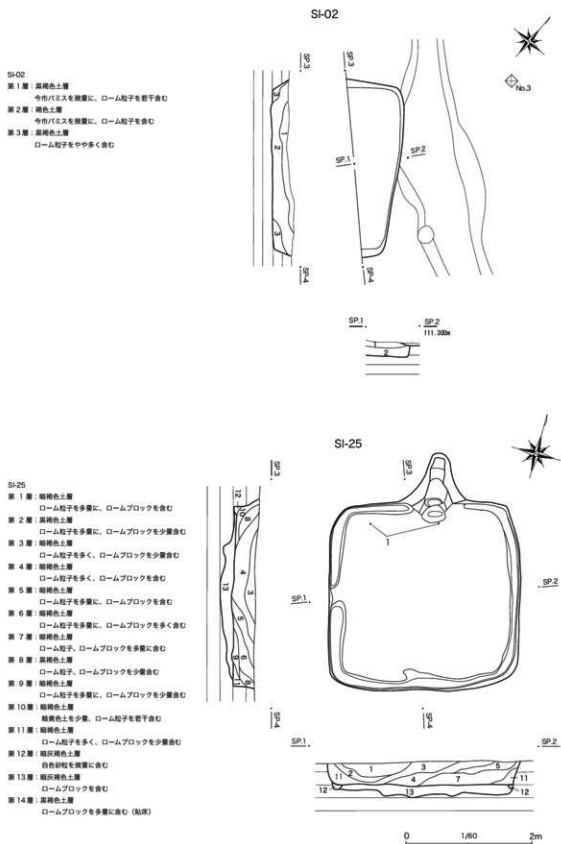
### 第3節 溝跡

SD-01 (遺構：第7、11図・図版四)

位置 1区：B-1、C-1・2、C-3、D-3グリッド。規模と形状 南北ともに調査区外のため全容は不明である。調査区内で検出できた長さ31m、幅0.5～0.8m前後、深さ0.06mである。断面の形状は皿状を呈する。底面



第8図 3区・4区遺構配置図



第9図 遺構実測図(1)

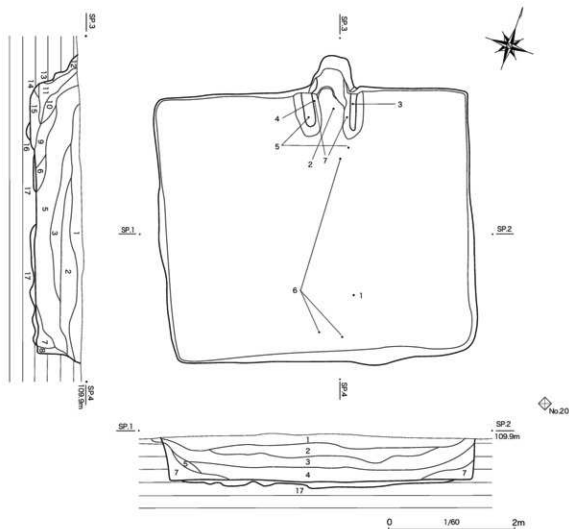
固く締まっている。覆土 自然堆積。出土遺物 なし。重複関係 SI-02と重複している。SI-02が古い。

SD-05 (遺構：第7、12図)

位置 1区：F-5グリッド。規模と形状 南北ともに調査区外のため全容は不明である。調査区内で検出してきた長さ約2m、幅0.3～0.5m、深さ0.4～0.5mで前後ある。断面の形状は皿状を呈する。覆土 自然堆積。出土遺物 なし。

SD-06 (遺構：第7、12、13図・図版四)

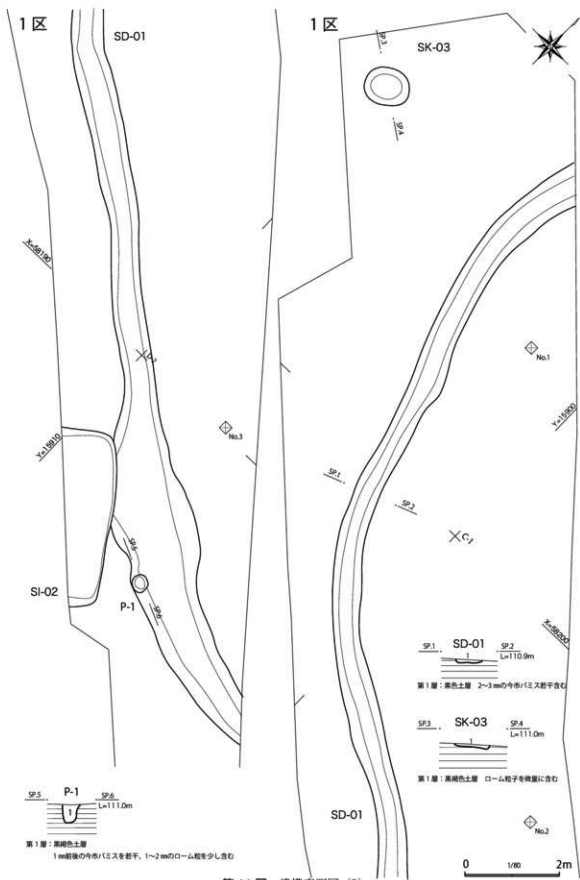
位置 2区：B-3、B-4、C-4グリッド。規模と形状 両端ともに調査区外のため全容については不明であるが、



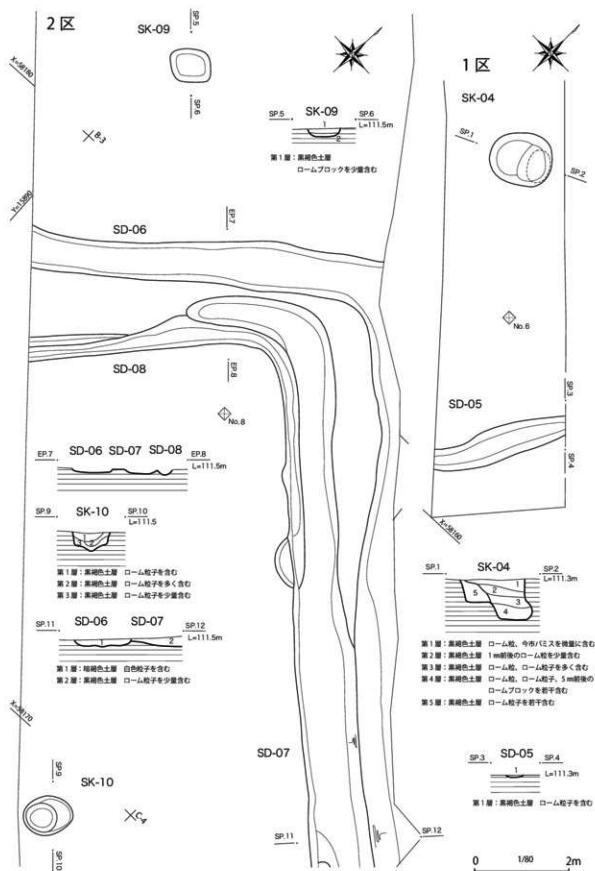
- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子、白色砂粒を少量含む
- 第2層：黒褐色土層 ローム粒子を多く、ロームブロックを少量含む
- 第3層：黒褐色土層 ローム粒子を多く、ロームブロックを少量含む
- 第4層：黒褐色土層 ローム粒子、白色砂粒を微量に含む
- 第5層：黒褐色土層 ローム粒子を多く、ロームブロックを少し含む
- 第6層：黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む
- 第7層：黒褐色土層 ローム粒子を多く含む
- 第8層：黒褐色土層 ローム粒子を微量に含む
- 第9層：褐色土層 1m前後のローム粒をやや多く、1～2mmの焼土粒を若干含む

- 第10層：黒褐色土層 1m前後の焼土粒を少し、灰白色粘土を全体的に含む
- 第11層：赭灰白色土層 灰白色粘土を多く、5～10mmの焼土粒をやや多く含む
- 第12層：褐色土層 1m前後のローム粒をやや多く含む
- 第13層：赤褐色土層 焼けたローム土層
- 第14層：黄褐色土層 ローム粒を多量に含む
- 第15層：赭灰白色土層 灰白色粘土を多く、2～5mmの焼土粒を少し含む
- 第16層：褐色土層 焼土粒をやや多く含む
- 第17層：黒褐色土層 ローム粒子、ローム粒を多く含む、固くしまる（粘球）

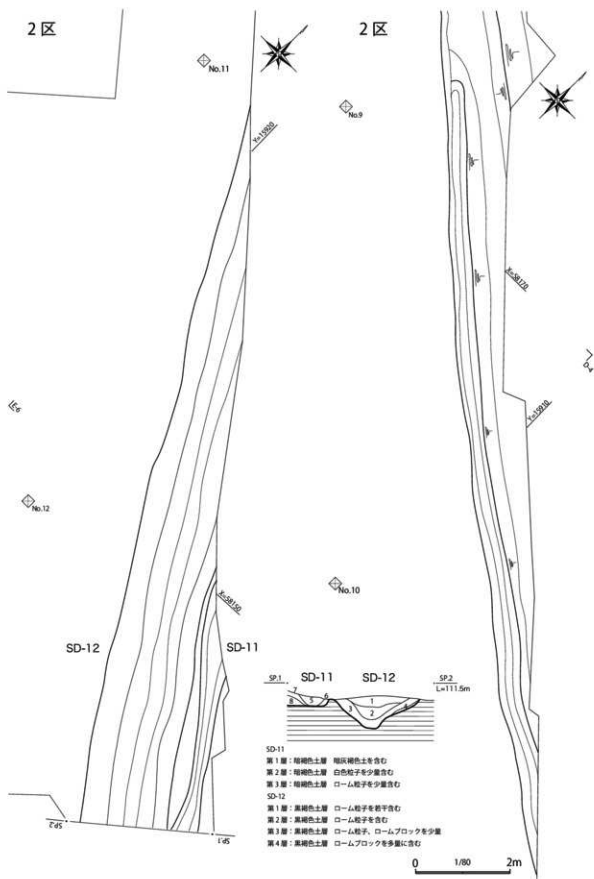
第10図 遺構実測図(2)



第11図 遺構実測図(3)

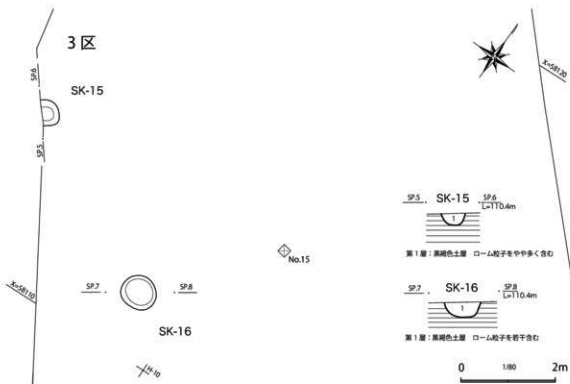
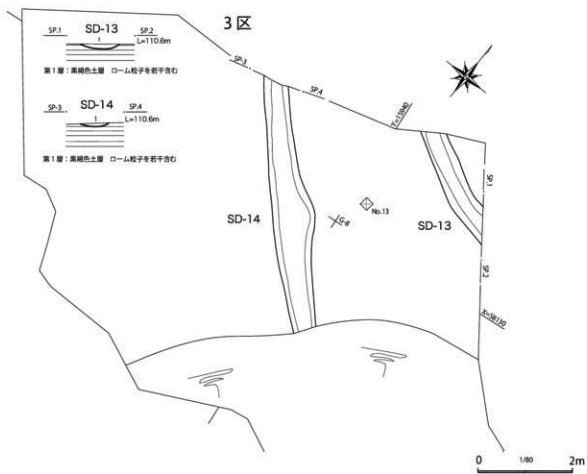


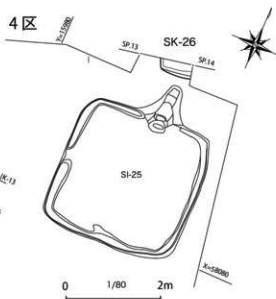
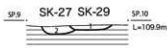
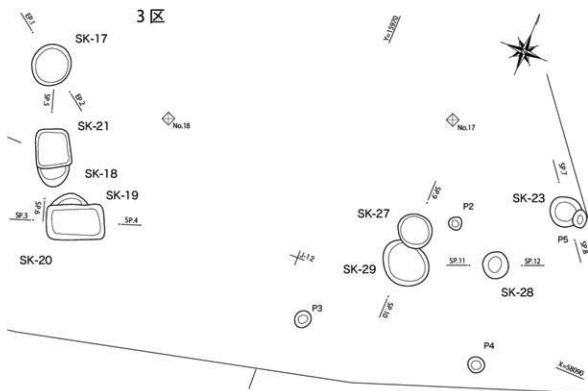
第12図 垣内大田区 14/



第13図 遺構実測図(5)







SK-17 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を若干含む

SK-20 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を若干含む

第2層：黒褐色土層 1m前後のローム粒をやや多く、10~20mmの

ロームブロックを散見に含む

第3層：黒褐色土層 1m前後のローム粒を少し含む

SK-21 第1層：黒褐色土層 5~20mmのロームブロックをやや多く含む

第2層：黒褐色土層 10m前後のロームブロックを少し含む

SK-23 第1層：黒褐色土層 1~2mmのローム粒を若干含む

SK-27 第1層：黒褐色土層 5~20mmのロームブロックをやや多く含む

SK-29 第2層：黒褐色土層 1~10mmのローム粒、ロームブロックをやや多く含む

SK-28 第1層：黒褐色土層 1~2mmのローム粒を若干含む

SK-26 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を若干含む

第2層：黒褐色土層 1m前後のローム粒をやや多く含む

第15図 遺構実測図 (7)

途中でおおよそ直角に曲がっている。長さ約19m、0.7～1.0m、深さ約0.2mである。断面の形状は皿状を呈する。  
**覆土** 自然堆積。**出土遺物** なし。**重複関係** 南側がSD-07と重複している。SD-06が新しい。

**SD-07** (遺構：第7、12、13図、図版四)

**位置** 2区:B-4、C-5・C-4・D-5グリッド。**規模と形状** 北東側は調査区外のため全容については不明である。SD-06と同様に、途中で直角に曲がっている。長さ約32m、幅0.7～1.2m、深さ約0.31mである。断面の形状は皿状を呈する。**覆土** 自然堆積。**出土遺物** なし。

**SD-08** (遺構：第7、12、13図・図版四)

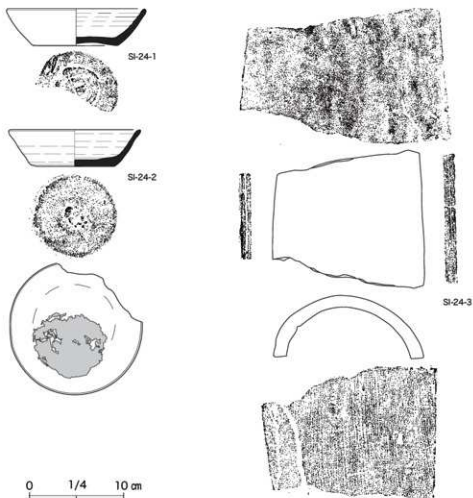
**位置** 2区:B-4、C-5・C-4・D-5グリッド。**規模と形状** 両端ともに調査区外のため全容については不明である。途中で一旦途切れるが、続いていると考えられる。SD-06・SD-07と同様に、途中で直角に曲がっている。長さ約24.5m、幅0.3～0.6m、深さ約0.1mである。断面の形状は皿状を呈する。**覆土** 自然堆積。**出土遺物** なし。

**SD-11** (遺構：第7、13図、図版四)

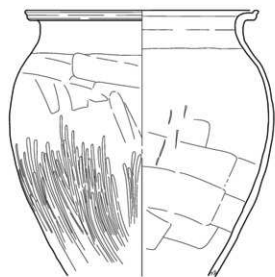
**位置** 2区:E-7グリッド。**規模と形状** 両端ともに調査区外のため全容については不明である。長さ約4m、深さ約0.2mである。断面の形状は皿状を呈する。**覆土** 自然堆積。**出土遺物** なし。

**SD-12** (遺構：第7、13図、図版四)

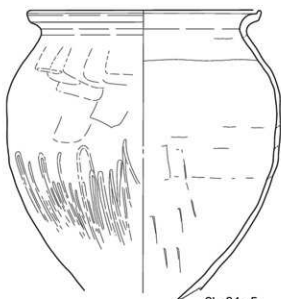
**位置** 2区:E-6・E-7グリッド。**規模と形状** 西側は調査区外のため全容については不明である。長さ約



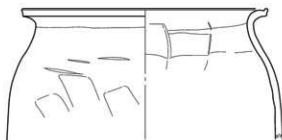
第16図 遺物実測図(1)



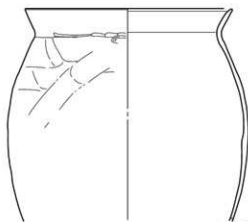
SI-24-4



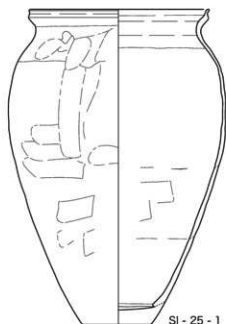
SI-24-5



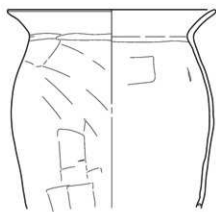
SI-24-6



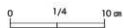
SI-24-7



SI-25-1



SI-24-8



### 第3章 発見された遺構と遺物

12m、幅約2m、深さ約0.7mである。他の溝と比較して幅も広く深い。断面の形状は逆台形である。覆土自然堆積。出土遺物 なし。

#### SD-13 (遺構：第8、14図)

位置 3区：G-8グリッド。規模と形状 両端ともに調査区外のため全容については不明である。長さ2.0m、幅0.5m、深さ0.20mである。底面 皿状である。覆土 自然堆積。

#### SD-14 (遺構：第8、14図)

位置 3区：F-8・9グリッド。規模と形状 両端ともに調査区外のため全容については不明である。長さ25.3m、幅0.50mから0.90m、深さ0.10mである。底面 皿状である。覆土 自然堆積。

第2表 出土遺物観察表

No.	種類 (遺構)	計測値 (cm) (長さ・幅・高さ)	色調 (内/外)	胎土	構成	残存率	技法		出土位置	備考
							内面	外面		
241	灰土器 環	口 ( 148 ) 底 90 高 38	10Y7/1 灰白 10Y7/1	砂粒・白色砂粒 多 小礫微量	良好	口縁部1/5残 体部・底部 1/3欠	口 体 底	ナデ ナデ 回転糸張り	床土10cm	底部へう記号
	灰土器 環	口 141 底 86 高 40	N5-0 灰 N5-0	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部・体部 1/3欠	口 体 底	ナデ ナデ 回転糸張り	カマド	内面付着物
243	瓦 丸瓦	150 幅 ~ 15.8 6.9 高 ~ 6.9	N5-1 灰 7.5YR6-1	砂粒・白色砂粒 多 小礫少量	良好	両端部欠損		布目 縦方向へう張り 長横方向ナデ 端部へう張り	カマド跡	
	土師器 壺	口 ( 214 ) 底 - 高 ( 28.0 )	7.5YR6-6 橙 7.5YR6-6	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部・体部 1/4残	口 体 底	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ ヘラケズリ→ヘラミギキ	カマド跡	
245	土師器 壺	口 ( 218 ) 底 - 高 ( 308 )	5YR5-8 明赤褐色 5YR5-8	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部1/5残 体部1/3残	口 体 底	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ ヘラケズリ→ヘラミギキ	カマド跡	
	土師器 壺	口 ( 260 ) 底 - 高 140	5YR4-8 赤褐色 5YR4-8	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部・体部 1/4残	口 体 底	ヨコナデ ヨコナデ ケズリ	カマド・遺物 近く床土5cm	
247	土師器 壺	口 ( 220 ) 底 - 高 ( 226 )	5YR5-6 赤 10R5-8	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部・体部 1/3残	口 体 底	ヨコナデ ナデ ケズリ	カマド跡	
	土師器 壺	口 ( 220 ) 底 - 高 ( 210 )	2.5YR5-8 明赤褐色 2.5YR5-8	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部・体部 1/4残	口 体 底	ヨコナデ ヨコナデ ケズリ	カマド跡	
251	土師器 壺	口 ( 190 ) 底 74 高 332	7.5YR6-4 T.赤い橙 7.5Y4/3	砂粒・白色砂粒 多	良好	口縁部1/5残 体部1/3欠	口 体 底	ヨコナデ ナデ ケズリ ナデ ナデ	カマド跡床土 22cm	
	遺構外 カワナ 瓦	口 50 底 31 高 08	5YR6-6 橙 5YR6-6	微細な砂粒	良好	完整	口 体 底	ヨコナデ ヨコナデ ナデ	2区	

## 第4節 土坑

#### SK-03 (遺構：第7、11図)

位置 1区：B-11グリッド。規模と形状 長径0.95m、短径0.8m、深さ0.07m。南北に長い楕円形。覆土自然堆積。

#### SK-04 (遺構：第7、11図)

位置 1区：F-5グリッド。規模と形状 長径1.0m、短径0.8m、深さ0.85m。南北に長い楕円形。底面 南

側に段を持つ、確認面から段までの深さ0.5m。覆土 自然堆積。

SK-09 (遺構：第7、12図)

位置 2区:B-3グリッド。規模と形状 長径0.85m、短径0.70m、深さ約0.15m。長方形。覆土 自然堆積。

SK-10 (遺構：第7、12図)

位置 2区:B-5グリッド。規模と形状 長径1.1m、短径0.80m、深さ約0.80m。楕円形。覆土 自然堆積。

SK-15 (遺構：第8、14図)

位置 3区:G-10グリッド。規模と形状 径0.55m、深さ0.20m。半分が調査区外であるが、円形と考えられる。

覆土 自然堆積。

SK-16 (遺構：第8、14図)

位置 3区:G-10グリッド。規模と形状 0.80径m、深さ0.30m。覆土 自然堆積。

SK-17 (遺構：第8、15図)

位置 3区:I-12グリッド。規模と形状 径0.80m、深さ0.30m。円形。覆土 人為的埋め戻し。

SK-18 (遺構：第8、15図)

位置 3区:I-13グリッド。規模と形状 径0.70m、深さ0.15m。北側がSK-21と重複しているが、円形と考えられる。新旧関係は土層の観察では明確に分層できなかったため不明である。SK-21と同時期に使用されたと考えられる。覆土 自然堆積。

SK-19 (遺構：第8、15図)

位置 3区:I-13グリッド。規模と形状 径0.90m、深さ0.20m。南側がSK-20と重複している、新旧関係は不明である。

SK-20 (遺構：第8、15図)

位置 3区:I-13グリッド。規模と形状 長径1.20m、短径0.70m、深さ0.30m。長方形。覆土 自然堆積。東側に別的小ピットが掘られていた。

SK-21 (遺構：第8、15図)

位置 3区:I-12グリッド。規模と形状 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.25m。長方形。覆土 自然堆積。

SK-22 (遺構：第8、15図)

位置 3区:J-12グリッド。規模と形状 長径1.10m、短径0.90m、深さ0.10m。楕円形。覆土 人為的埋め戻し。

重複関係 北側がSK-27と重複している。SK-27が新しい。

SK-23 (遺構：第8、15図)

位置 3区:J-12グリッド。規模と形状 径0.65m、深さ0.20m。円形。覆土 自然堆積。重複関係 東側がP-5と重複しているが、新旧関係は不明である。

SK-26 (遺構：第8、15図)

位置 4区:K-13グリッド。規模と形状 北側、東側ともに調査区外のため形状は不明である。調査が来た東西長0.70m、南北長0.30m、深さ0.35m。覆土 自然堆積。

SK-27 (遺構：第8、15図)

位置 3区:J-12グリッド。規模と形状 径0.70m、深さ0.15m。円形。覆土 自然堆積。

SK-28 (遺構：第8、15図)

位置 1区:グリッド。規模と形状 径0.55m、深さ0.1m。円形。覆土 自然堆積。

P-2 (遺構：第8、15図)

位置 3区:J-12グリッド。規模と形状 径0.2m、深さ0.1m。円形。覆土 自然堆積。

P-3 (遺構:第8、15図)

位置 3区:J-13グリッド。規模と形状 径0.3m、深さ0.1m。円形。覆土 自然堆積。

P-4 (遺構:第8、15図)

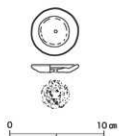
位置 3区:J-13グリッド。規模と形状 径0.3m、深さ0.1m。円形。覆土 自然堆積。

P-5 (遺構:第8、15図)

位置 3区:J-12グリッド。規模と形状 径0.4m、深さ0.1m。円形。覆土 自然堆積。

## 第5節 その他の遺物

遺構外から出土した遺物のうち、2区から出土したカワラケが1点図示できた。直径5cm、器高0.8cmと小型で薄い。底部には回転糸きり痕が残り、焼成後に内側から外側に孔があけられている。灯明皿のロウソクを立てるための釘孔と考えられる。



第18図 遺構外遺物実測図

## 第4章 まとめ

発掘調査は限られた範囲ではあるが、3軒の堅穴住居跡の他、溝や土坑などを検出することができた。調査区に隣接して栃木県教育委員会事務局文化財課で実施した立ち会い調査においても堅穴住居跡が2軒検出されている。この2軒は耕作による削平のため、残りがよくなかったが、土師器の甕の破片が出土している。SI-24と同時期の甕と考えられる。このことから、舟戸台北遺跡では、遺構の密度は薄いものの、ある程度の範囲で集落が営まれていた事が確認できた。

堅穴住居跡のうち、1軒は大部分が調査区外のため詳細は不明で遺物の出土も須恵器の小片のみであったが、他の2軒は遺構全体を掘り上げることができ、遺物の出土もあった。SI-24では須恵器の坏が2点出来たが、他に小片であるが数点出土している。須恵器の産地は同じ芳賀郡内であり、益子町益子古窯跡群の窯跡で焼かれたものが大部分を占めるが、茨城県水戸市木葉下窯跡群で焼かれたと考えられる須恵器の坏も出土しており、当時の流通の一端が伺い知る事が出来た。

また、SI-24からは瓦が出土している。このような瓦の出土例は、当遺跡から南に約3.8kmに位置する井頭遺跡でも見られる。この時期に瓦を使用した建物が存在し、同じ芳賀郡内であることから、当遺跡から南南東約6kmに所在する大内庵寺跡、もしくは、堂法田遺跡から運ばれたと考えられる。

# 写 真 图 版





SI-24 発掘状況 (南から)



SI-24 発掘状況 (南から)



SI-24 東西セクション (南から)



SI-24 南北セクション (西から)



SI-24 遺物出土状況 (南から)



SI-24 カマド遺物出土状況 (南から)



SI-24 カマド遺物出土状況 (南西から)



SI-24 カマド遺物出土状況 (南東から)



SI-24 カマド袖遺物出土状況 (南から)



SI-24 カマド掘方状況 (南から)



SI-25 東西セクション（南から）



SI-25 南北セクション（西から）



SI-25 遺物出土状況（南から）



SI-25 カマド遺物出土状況（南から）



SI-24 遺構調査風景（南から）



SI-25 遺構調査風景（北から）



SI-02 南北セクション（東から）



SI-02 東西セクション（北から）



SI-02 完掘状況(東から)



SD-01・SI-02 完掘状況(南東から)



SD-01 完掘状況(北西から)



SD-06・07・08 完掘状況(南東から)



SD-06・07・08 完掘状況(北西から)



SD-11・12 調査風景(南東から)



SD-11・12 完掘状況(南東から)



SD-12 東西セクション(北西から)



基本土層





SI-24-4



SI-24-5



SI-24-6



SI-24-7



SI-25-1



SI-24-8

## 報告書抄録

ふりがな	ふなとだいきたいせき							
書名	舟戸台北遺跡							
副書名	快適で安全な道づくり事業費（補助）一般国道123号水橋西工区に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第382集							
編著者名	植木茂雄							
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441							
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団							
発行年月日	西暦 2016年3月29日（平成28年3月29日）							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふなとだいきたいせき 舟戸台北 遺跡	ふなとだいきたいせき 芳賀町 西水沼	317	7684	36° 31' 23"	140° 0' 42"	20150622 ～20150930	4.132	道路整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
舟戸台北 遺跡	集落	平安	竪穴住居跡 3軒 土坑 16基 溝 9条 小穴 5基	土師器 須恵器 土師質土器				
要約	<p>奈良から平安時代にかけての時代の遺跡である。            今回の調査では、道路の拡幅工事に伴う、狭い範囲の発掘調査で、遺跡の一部ではあるが、平安時代の遺構・遺物の検出が出来、遺跡の一端を知ることができた。</p>							

---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 382 集

舟戸台北遺跡

—快速で安全な造づくり事業費（補助）— 総取組 123 号水堀西口区に存する埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田 1-1-20

TEL 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

TEL 028 (643) 1011

平成 28 年 3 月 29 日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

TEL 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社

---

---

本書は栃木県教育委員会の承認を得て、  
（公財）とちぎ未来づくり財団が発行するものである。